

# 未来の農をこの地に

— 仙台東部地域 農業復興の記録 —

平成27年3月  
仙台市



# 未来の農をこの地に

厳しい現実立ち向かった最初の春、  
復旧したほ場に土の息吹を感じた二度目の春、  
水稲、野菜、花を生み出す力を再び取り戻した三度目の春。

そしていま—

新しい農業の担い手となって迎える平成27年春、

私たちは、復興を遂げた農地に  
未来型農業のグランドデザインを描きます。

効率の良い経営、連携による競争力向上、  
高付加価値商品の開発、次世代育成。  
課題を成長の糧として、積極的に、そして着実に。  
ここ東部地域から、未来に続く扉を開きます。

## 目次

発刊にあたって	2	「再び立ち上がった」被災地の今	15
大震災を乗り越えて	3	東部地域	16
東日本大震災の被害状況	5	六郷地区	17
「力強く農業を再生する」 農と食のフロンティアプロジェクト	7	七郷地区	19
1. 農地復旧から営農再開まで	8	高砂地区	21
2. ほ場整備の推進	10	これからの農業を支える施策	23
3. 農業経営の支援	11	座談会	
4. 平成26年度の動き	13	「仙台東部地域農業の復興を振り返る」	27
		東部農業地域の復旧・復興の歩み	29

## 発刊にあたって

平成23年3月11日に発生した東日本大震災は、千年に一度の規模ともいわれる巨大津波を引き起こしました。本市沿岸部に位置する東部農業地域でも、広大な農地と、それを支えてきた集落が、津波によって壊滅的な被害を受けました。

水浸しとなった農地は、山のようながれきや流木だらけ。押し流された多数の農業用機械や、原形を留めないパイプハウス。生産手段も、生活の場も失った農業者の人々は、この地で再び農業をすることなど不可能だと、諦めの念を抱いたのです。

しかし、先祖代々受け継いできた農業に対する誇りと愛着から、人々は立ち上がりました。がれきの撤去や農地の除塩・復旧などを経て、震災翌年の平成24年春には、内陸寄りの被災農地で営農を再開。その他の農地でも段階的に営農を再開し、これから迎える平成27年春には、被害が甚大であった海沿いの農地を含め、全ての被災農地で作付けが行われることとなっています。

本市は、東部農業地域を単に元の姿に戻す「復旧」にとどまらず、未来に向けてより農業を発展させる「復興」を目指して、各種施策に取り組んでまいりました。

国・県が実施主体となって農地の大区画化を行う「ほ場整備」では、本市が地元の迅速な合意形成に奔走し、平成25年秋より順次着工。また、津波で流出した農業用機械や施設については、国の制度も活用しながら、各種助成や無償貸付（リース事業）を実施しているところです。

今後は、基盤整備された農地を舞台に、集落営農組織等の法人化や農地の集約化、そして農工商連携・6次産業化の機運が、さらに加速していくことが予想されます。いずれも、安定した農業経営環境を確保し、収益の向上を図る「未来の農」を体現しようとするものです。

折しも本市では、平成26年2月、仙台経済の新たな成長に向けた戦略として「仙台経済成長デザイン—質的拡大による新たな成長—」を取りまとめ、4つの数値目標のひとつとして「平成29年までに年間農業販売額100億円を目指す」を掲げました。

震災被害から力強く復興しつつある東部農業地域が、「農と食のフロンティア」として本市の農業振興を牽引し、さらには全国のモデルケースとなれるよう、本市ではこの目標達成に向けて各種支援策を講じてまいります。

本誌は、平成26年3月に発行した「農の新風、ここに興る」の続編で、東部農業地域の復興のあゆみに加え、この1年間の新しい潮流をご紹介します。ご覧になる皆さまに、確かな農業復興の息吹を感じていただければ幸いです。

最後に、復旧・復興に向けて多大なるご支援を賜りました皆さまに改めて感謝を申し上げ、発刊のことばといたします。



仙台市長

奥山 恵美子



# 大津波襲来 浸水地を前に 立ちすくむ

平成23年3月11日午後2時46分、巨大地震発生が発生。東部地域は、米や野菜、花きなどの農産物を仙台市民に供給してきた一大農業地帯です。その東部地域の耕地面積の約78%が大津波で被災し、農業機械や農業施設も流失、破損しました。



## 一日でも早く! がれき撤去開始

復旧作業を行うには、流入した海水を1日も早く排出することが必要でした。壊滅的被害を受けた排水機場に代わり、応急的に仮設のポンプで排水しました。復旧計画に基づく、がれき撤去も始まりました。

人知を尽くせば、農地は必ず甦る。  
信念を持って復旧・復興を成し遂げ、  
一歩二歩力強く歩み始めています。

## 明日に希望を 復興計画 スタート

平成23年3月25日、海水を被った農地で塩害調査を開始。4月5日には、市・仙台東土地改良区・JA仙台との連携による「仙台東部地区農業災害復興連絡会」が発足し、復興に向けた取り組みが始まりました。



### 平成23年(2011年)

- 巨大地震発生
- 仮設ポンプ設置
- 農地塩害状況調査
- 「仙台東部地区農業災害復興連絡会」の発足
- 農地のがれき撤去
- 農地・農業用施設の復旧工事

### 平成24年(2012年)

- 震災後初の営農再開
- ほ場整備事業推進
- 仙台市経済局農林部に「東部農業復興室」を設置
- 「農と食のフロンティア推進特区」が国より認定
- 「農事組合法人仙台イーストカントリー」を農と食のフロンティア推進特区の第1号として指定



# 大震災を乗り越えて



## 大地に実りを 次々と 営農再開

平成24年5月、560haの農地での営農再開を皮切りに、着々と作付が再開されました。また、「農と食のフロンティア推進特区」などの市の施策を受けて、被災農業者が再生に向けた一歩を踏み出しました。



## 未来へ続く道 ここから始まる

震災発生から4年。仙台東部地域ではいま、多くの農業者が未来型農業を目指して農地の集約化や法人化、6次産業化に取り組んでいます。



### 平成25年(2013年)

- 農業機械等引渡式  
(被災地域農業復興総合支援事業(リース事業))
- 仙台市農業園芸センター再整備基本方針の決定

- 国営仙台東土地改良事業  
起工式

### 平成26年(2014年)

- 大規模ほ場での営農再開
- 新しい排水機場の稼働開始
- 六郷ライスセンターの建設



# 東日本大震災の被害状況



■平成23年3月18日 若林区藤塚地区上空



■平成23年3月18日 若林区七郷地域



■平成23年3月11日 津波が押し寄せた仙台市農業園芸センター





■平成23年3月24日 若林区六郷地域



■平成23年3月21日 若林区荒浜地区



■平成23年3月18日 大堀排水機場



■平成23年3月21日 二郷堀排水機場

## 地震の概要

地震名	平成23年(2011年) 東北地方太平洋沖地震
発生日時	平成23年3月11日 14時46分
震央地名	三陸沖 (北緯38度06.2分、東経142度51.6分)
規模	マグニチュード9.0 (モーメントマグニチュード)
市内の震度	震度6強: 宮城野区 震度6弱: 青葉区、若林区、泉区 震度5強: 太白区
津波	3月11日 14時49分 太平洋沿岸に大津波警報発表 津波の高さ 仙台塩釜港 7.2m(推定値) (地震発生後、約1時間後に津波(第一波)到達)

※最大余震(4月7日 23時32分)  
マグニチュード7.2 宮城県沖  
○震度6強 宮城野区 ○震度6弱 青葉区・若林区  
○震度5強 泉区 ○震度5弱 太白区

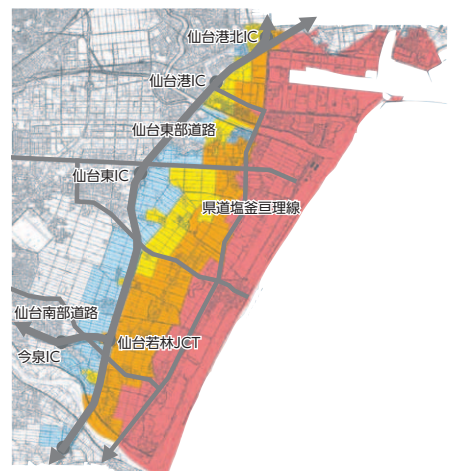
## 東部地域の被害状況

### 浸水被害区域状況

区域内人口	21,966人
区域内世帯数	8,086世帯
土地面積	4,633ha
建物棟数	12,277棟

### 農林水産業関係被害額 734億円

1. 農業関連被害額	721億円
(1) 農地関係	396億円 被害面積: 約1,800ha(田1,600ha、畑200ha)
(2) 農業用機械施設関係	106億円 パイプハウス、カントリーエレベーター等
(3) 土地改良施設関係	219億円 排水機場(4ヶ所)、水路、農道等
2. 林業関連被害額	0.7億円 林道23路線
3. 漁業関連被害額	13億円 漁船、のり養殖施設、防潮堤、共同施設等



津波被害状況 ※現地調査に基づき地域を設定

- 家屋流出 1階天井まで浸水した地域
- 床上1m以上の浸水 がれきが建物内に流入した地域
- 床上浸水した地域
- 床下浸水した地域



# 仙台市震災復興計画

## 「力強く農業を再生する」 農と食の フロンティア プロジェクト

東部地域を、  
農業が成長力のある産業に生まれ変わる拠点  
「農と食のフロンティア」と位置付け、  
復興に向けたさまざまな取り組みを進めます。

### 農地の復旧と再生

早期の全面的な営農再開

- 農地の除塩・ほ場整備
- 用排水路・排水機場の復旧

### 被災農業者の経営支援

生産基盤の強化

- 多様な担い手の育成支援
- 多様な農産物の生産体制の構築支援
- 生産設備や農業生産技術の調達・更新の支援

### 農と食のフロンティアの構築

6次産業化による高付加価値化や高度化の促進

- 農業者のマーケティング視点の強化
- 農業者の食品加工・流通・販売への参入の支援



# 1

## 農地復旧から 営農再開まで

### 仮設ポンプの設置

平成23年3月20日～26日

東部地区はもともと海拔高度の低い土地で、強制排水のために4つの排水機場（高砂南部、大堀、二郷堀、藤塚）が設置されていました。ところが、津波により全ての排水機場が壊滅的な被害を受けたため、流入した海水が引かず、行方不明者の捜索や被害状況の把握に支障が出ました。本市では、農林水産省や国土交通省等から仮設ポンプやポンプ車を借用し、排水作業に当たりました。



排水ポンプ車による排水

仮設排水ポンプによる排水

### 塩害状況調査

平成23年3月29日・30日

本市は、宮城県、JA仙台と連携して、被災農地170箇所の塩害状況（EC値）を調査。採取した土壌を分析し、除塩作業が必要な地域を把握しました。これにより、塩害の程度が比較的軽い内陸寄りの農地から、段階的に営農を再開する計画を立てました。



農地塩害状況調査市長視察

### 「仙台東部地区農業災害復興連絡会」の発足

平成23年4月5日

発災から1か月も経たない平成23年4月、仙台市、仙台東土地改良区、JA仙台的三者は、「仙台東部地区農業災害復興連絡会」を立ち上げました（後に、国と宮城県も参加）。

会議は、平成25年7月の第16回まで開催。各種施策の方針や内容、進捗状況について協議し、復旧・復興に向けた迅速な意思決定に寄与しました。



仙台東部地区農業災害復興連絡会



## 農地の除塩作業

海水を被った農地では、塩分による作物の枯死、土壌中に残った海水がもたらす排水不良、といった作物の生育への悪影響が考えられます。国では除塩のため、仮排水路を整備して溜まった海水を排除したうえ、農地に石灰系土壌改良剤を投入して耕し、真水を地下浸透させて塩分を洗い流す作業を繰り返し行いました。



除塩作業

## 排水機場の応急復旧

平成23年6月～平成24年6月

被災した4か所の排水機場(高砂南部、大堀、二郷堀、藤塚)について、国は平成24年6月までに全11台のポンプの復旧を終え、被災前と同じ排水規模(Q=19m<sup>3</sup>/s)を確保しました。



復旧後の  
大堀排水機場

(農林水産省提供)



重機によるがれき撤去作業

## 農地のがれき撤去

平成23年7月1日～12月28日

被災地には、膨大な量のがれきや車両が漂着しました。投入できる人員や重機に限られるなか、市は、まず宅地や事業用地のがれきを優先して撤去。その後、平成23年7月に農地のがれき撤去を開始し、翌年度の営農再開に間に合うよう、年内に完了させました。



下飯田排水機場 被災状況



9 二郷堀排水機場 被災状況

## 農地・農業用施設の復旧工事

平成23年11月～平成24年2月

津波被害を受けた農地は、耕土が剥ぎ取られたうえ、ヘドロに覆われました。このため、国が事業主体となってヘドロ除去・盛り土を行うとともに、建物の残骸や流木が衝突して破損した畦畔(はいぼん)や農道、用排水路などの復旧を行いました。



微細がれき撤去作業





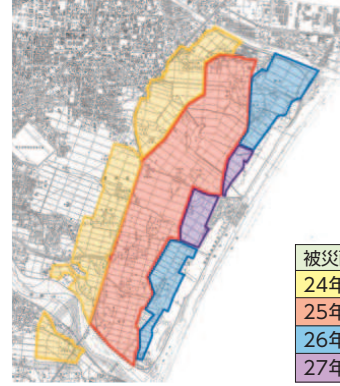
田植え作業

## 震災後初の営農再開

平成24年5月

被災農地1,860haのうち、復旧工事と除塩作業が終了した農地560haで、震災後初めて営農が再開されました。

### 沿岸被災農地の営農再開状況

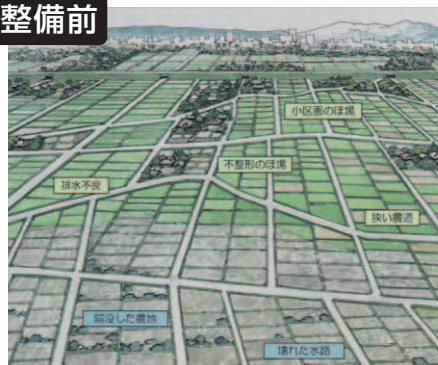


# 2

## ほ場整備の推進

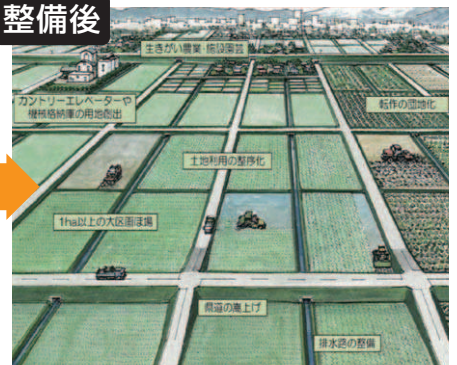
東部地域の農地は30a程度の小規模なものが多く、形も不整形でしたが、震災被害からの復旧を契機に、農地の区画を1ha程度に整える「ほ場整備」に着手しました。本市では、国・県とともに事業を進めており、農作業の効率を上げ、より生産性の高い競争力のある農業への転換を目指しています。

### 整備前



- 農道が狭く農作業に支障
- 排水不良

### 整備後



- 農道整備で作業効率が向上
- 排水改良
- 円滑な農地の貸し借り



ほ場整備事業区域(仙台市内)

平成23年5月2日	「東日本大震災に対処するための土地改良法の特例に関する法律」施行
平成23年5月31日	仙台市長から宮城県知事へ、直轄特定災害復旧事業(仙台東地区)を要請
平成23年8月26日	国において直轄特定災害復旧事業(仙台東地区)の施行決定
平成23年10月27日	仙台市がほ場整備事業の農業者負担分を全額負担することを表明
平成23年11月～平成24年2月	仙台東地区復旧・復興事業説明会(第1回～第3回)
平成24年4月～	仙台東部地区ほ場整備事業推進協議会、集落説明、同意徴集手続きなど
平成25年6月22日	国営仙台東土地改良事業計画確定
平成25年9月19日	国営仙台東土地改良事業着手
平成25年10月25日	国営仙台東土地改良事業起工式



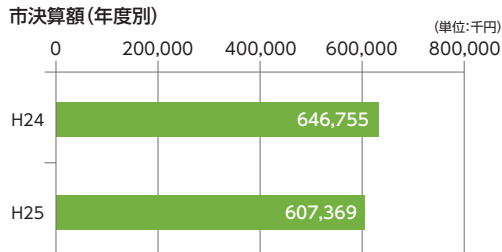
# 3 農業経営の 支援

## 被災地域農業復興 総合支援事業(リース事業)

平成24年度～

津波により多数の農業用機械が流出しましたが、被災農業者が個人で新たな農業用機械を準備することは容易ではありません。

本市では東日本大震災復興交付金事業を活用して、トラクター、田植機、コンバイン等の大型農業用機械や、育苗用パイプハウス等の施設を整備し、集落営農組織など被災農業者で構成される集団へ、無償で貸与しています。また、各集落に、農業用機械格納庫を併せて整備しています。



田植機、コンバイン、トラクター



育苗用パイプハウス



弁戸



代かきハロー



農業用機械格納庫



地域食材供給施設  
(農事組合法人 仙台イーストカントリー)



乾燥調製施設  
(農事組合法人 仙台中央アグリサービス)

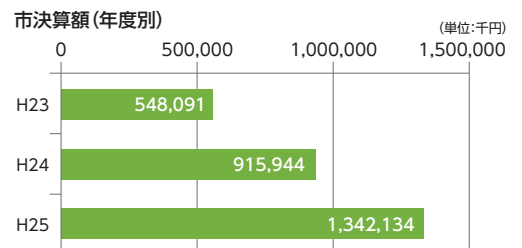


生産技術高度化施設  
(農事組合法人  
クローバースファーム)

## 東日本大震災 農業生産対策交付金

平成23年度～

農業者が組織する団体、農事組合法人等を対象に、共同利用の施設の導入・修繕、リース方式による農業機械の導入、資材の導入等に対し、国・県・市で補助を行っています。

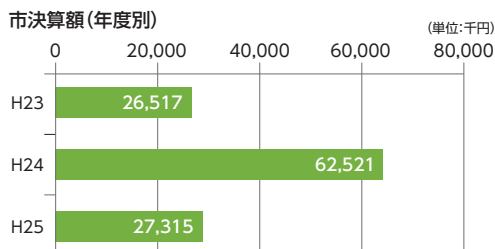




## 野菜・花きパイプハウス 緊急設置事業

平成23年度～

津波による被災で、営農が困難になった農業者(営農集団・認定農業者・エコファーマーなど)がパイプハウスを設置する場合、その面積に応じ市が事業費の一部を助成しています。



農事組合法人 福鶴ファーム

## 農と食のフロンティア推進特区

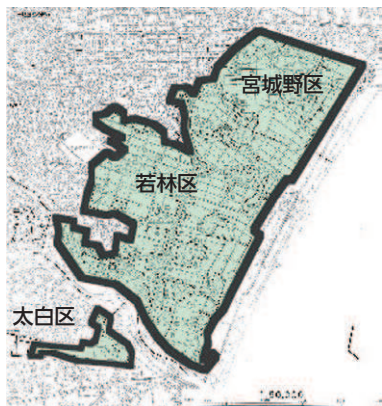
平成24年度～

国の復興特区制度を活用した仙台市東部地域の「農と食のフロンティア推進特区」により、税制面での優遇措置を設けて、農業機械や施設の取得、新規法人の設立などに取り組みやすい仕組みづくりを行っています。この特区により、農業者が将来に希望を持ち、担い手が集まる収益性の高い農業の実現を目指します。

現在、63の事業者が特区の指定を受け、事業を展開しています(平成27年1月1日現在)。

### 対象区域

津波被害地域及びその隣接地域(東部地区及び四郎丸地区)の農業振興地域  
約3,000ha



### 業種

農業  
農業関連加工・流通・販売関連産業  
農業関連再生可能エネルギー関連産業  
農業関連試験研究関連産業



農事組合法人 仙台イーストコントロー



株式会社 みちさき



# 4 平成26年度の動き

## 大規模ほ場での営農再開

平成26年5月

ほ場整備事業が最も早く完了した若林区井土地区では、東部地域で初となる、大区画化されたほ場での営農を再開しました。

用水路のパイプライン化により取水が容易になるほか、被災地域農業復興総合支援事業（リース事業）により導入した大型農業用機械も、大区画化により操作が楽になることで、効率的な農作業を行うことができます。



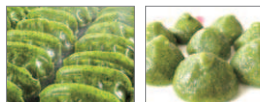
## 泉佐野市 絆交流プロジェクト

関西国際空港を擁する人口約10万2000人の都市、大阪府 泉佐野市。周辺の自治体と合わせ「泉州地域」と呼ばれ、「水なす」や「泉州タオル」などの特産品が有名です。

泉佐野市は復興支援の一環として、3人の職員を本市へ派遣。この縁で、本市は泉佐野市の皆さまに感謝の念を表すとともに、農業を通じた相互交流を行うため、平成25年7月、東部農業地域の農業者やJA仙台とともに「泉佐野市 絆交流プロジェクト」を立ち上げました。

平成25年9月と平成26年9月には、関西国際空港内で開催された「泉州・関空にぎわいフェスタ」にブース出展。復興状況をビデオやパネルで紹介するとともに、米・みそ・漬物など農産物の販売や、「仙台あおば餃子」などのお振る舞い（試食）を行い、今後の関西圏との観光交流の足掛かりとしても有意義なイベントとなりました。

仙台産の「雪菜」を皮に練り込み、「社の都 仙台」をイメージした「仙台あおば餃子」（スタンダードタイプ）



来場者で賑わうイベント会場



「仙台あおば餃子」を試食する千代松 大耕・泉佐野市長



「仙台・奥州おもてなし集団 伊達武将隊」と「大阪RONIN5」がステージで共演



## 新しい排水機場の稼働開始

平成26年5月～

被災した4か所の排水機場(高砂南部、大堀、二郷堀、藤塚)は、平成24年に応急復旧し、被災前の機能を回復していたところですが、地震による地盤沈下に伴い、より高い排水能力を有する排水機場の整備を進めています。

平成26年5月の大堀排水機場を皮切りに、新しい4排水機場が順次稼働を開始します。それぞれの排水機場の排水能力は、約2倍に増強される予定です。



二郷堀排水機場



藤塚排水機場



高砂排水機場



大堀排水機場

## 六郷ライスセンター (米の乾燥調製施設)の建設

平成26年6月～平成27年3月

津波により、個々の農業者が所有していた米の乾燥機等が流出したため、本市では被災地域農業復興総合支援事業を活用し、六郷地区に大規模な乾燥調製施設を建設しました。

この「六郷ライスセンター」は、地元農業者が組織する管理運営組合により、平成27年から稼働を開始します。



六郷ライスセンター

復興支援  
ありがとうございます!

農林水産省から



細井 和夫さん  
(平成23年9月～平成26年3月)



米田 太一さん  
(平成26年4月～)

他都市から



大阪府泉佐野市から  
甲田 裕武さん  
(平成24年10月～平成25年9月)



大阪府泉佐野市から  
今西 紀彰さん  
(平成25年4月～平成26年3月)

他都市から



大阪府泉佐野市から  
木村 真一さん  
(平成25年4月～平成26年3月)



山形県長井市から  
穂刈 健司さん  
(平成24年11月～平成24年12月)



山形県南陽市から  
山口 孝司さん  
(平成25年1月～平成25年3月)



山形県南陽市から  
井上 重弘さん  
(平成25年4月～平成25年9月)



山形県南陽市から  
小関 則雅さん  
(平成25年10月～平成26年3月)



神奈川県横浜市から  
山口 司さん  
(平成23年6月～平成24年3月)



新潟県新潟市から  
佐藤 義浩さん  
(平成23年7月～平成25年3月)

農林土木課



# 「再び立ち上がった」 被災地の今

一時は絶望に打ちのめされた。

しかし、多くの人の励ましに勇気を奮い立たせ、  
再び田畑に立った。

あの日から4年。

新しい農業時代到来の予兆のなかで

今またここで農業ができる喜びを噛みしめている。





# 東部地域

## 仙台の地産地消を担う

高砂・七郷・六郷・四郎丸の仙台東部地域は、大都市仙台圏の地産地消を担う、一大農業地帯です。

屋敷林の点在する風景は「緑の浮島」と呼ばれ、食の供給を通して農村文化の魅力も伝えてきました。

東部地域は震災で大きな打撃を受けましたが、多様な制度の活用と人・組織のつながりで逆境を乗り越え、いま、成長力のある産業として再生を果たそうとしています。



若い世代の農業への参入、市民との連携による販路の開拓、商品開発による6次産業化など新しい芽がどんどん育っています。



地元でつくった美味しい米、野菜、美しい花を仙台市民へ。都市型農業のメリットを活かした取り組みが進みます。



東部地域に広がる農地





# 六郷地区

次世代農業の創生に向けて

## 若手の育成や新しい作物づくりに挑む

震災前の六郷地区では、県内一の生産量を誇るレタスのほか、ダイコンなどの根菜類、コマツナなどの葉物野菜を生産していました。

復興が進む過程で、農業者たちは新規就農者によるレタス生産や新規作物の栽培

など、安定して経営に取り組める環境づくりに挑んできました。

様々な試みのなかで、次世代農業への創生に向けた機運が高まっています。

## 地区の主な取り組み

### 農事組合法人 井土生産組合

「この先祖伝来の農地を守ることで、集落の絆を継承していきたい」。組合長の鈴木保則さんは、そう言って広い耕作地に目をやります。

井土地区では、平成24年に営農を再開し、平成25年1月に農事組合法人 井土生産組合を設立。現在は、東部地域で第1号となった大規模ほ場での稲作を中心に、ミニトマトやタマネギなど新しい作物にも挑戦し、複合経営に取り組んでいます。

平成26年春には、新規就農を目指す若者が研修生として加わりました。「若い人たちが育って仲間になってくれば、農業に希望が見えてきます」と、皆さん顔をほころばせます。

一方、新品種のミニトマト「アンジェレ」をつくるのは、組合メンバーの妻たちで構成する女性部の皆さん。甘みがあって味の濃いトマトは、「将来は宮城のブランドトマトに」と期待されています。



平成26年1月には、ユキナの初収穫を行いました。



浸水被害から甦った農地に、稲穂がたなびきます。収穫を喜び合う奥山市長(左端)と井土生産組合の皆さん。



研修生の受け入れには、仙台市の農業人材育成事業を活用しました。



被災農家の女性たちが、ミニトマトの粒の大きさや色を確認しながら選り分けていきます。





## 今泉希望生産組合

農機具やパイプハウスの共同利用とレタスの共同栽培により、経営の効率化を図っています。「病気や害虫を抑え、安心して食べられる野菜を届けたい」と、皆さん意欲满满。「ベテランの知識や経験を共有し、若手の考えも取り入れながら力を合わせて頑張りたい」と話します。



今泉希望生産組合は、平成23年10月に設立された任意組織。「農業の基本は土づくり」と、土壌改良に取り組み続けています。



農地の回復状況や農機具の活用状況を視察する奥山市市長(左端)。

## 日辺の河川敷農地の復旧

日辺は、河川敷の肥沃な土壌を利用した野菜づくりが盛んな地域です。川を遡上した津波で塩害を被りましたが、日辺実行組合などが中心になって、除塩や土起こしを進めました。「仙台市の河川敷農地への支援制度

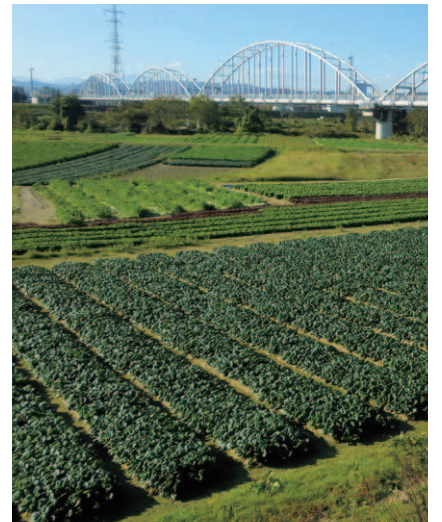
を利用できて助かりました」と地元の皆さん。平成25年春には、キュウリやトマトなどの作付を再開。震災前と変わらない農場の風景が戻りました。



復旧作業の進む河川敷農地。



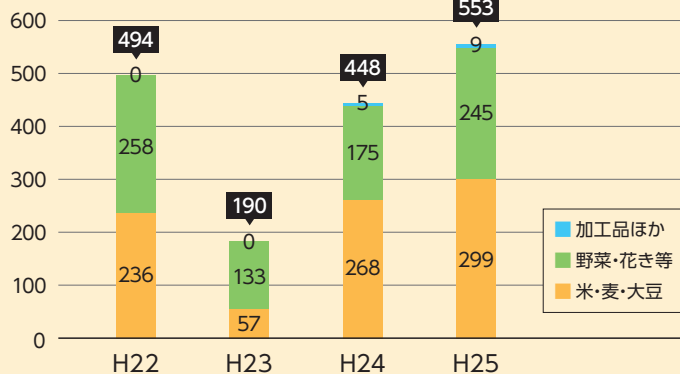
日辺での収穫風景。



広瀬川と名取川の合流地点近くに、日辺の河川敷農地が広がっています。

## 六郷地区の農業販売額から見る復興のあゆみ(年度別)

(単位:百万円)



### ■ 主要野菜

だいこん  
レタス  
はくさい  
ほうれんそう  
サニーレタス  
ゆきな  
こまつな  
グリーンカール  
たまねぎ  
えだまめ  
にんじん



データ提供: JA仙台



# 七郷地区

コミュニティ再生を視野に入れた農業創造



## 緑豊かな田園地帯から生まれる農作物、再び

震災前の七郷地区では、水稻を中心に、ネギやコマツナなどの生産が行われていました。

復興の過程で、ミニトマトなど園芸作物の試作や農地集約に向けた動きが活発になり、平成26年秋には、被害の大きかった荒浜

地区で4年ぶりに収穫した米が、「復興米」として地域の人びとにふるまわれました。

コミュニティ再生を視野に入れた新しい農業の創造に、期待が寄せられています。

## 地区の主な取り組み

### 荒浜集落営農組合

平成26年秋、黄金色のほ場にコンバインの音が響き渡りました。荒浜集落営農組合が震災後初めて作付けした米の収穫風景です。「ようやくここまで来ました」と安堵する組合長の佐藤善一さん。土壌の入れ替えや大豆栽培による地力回復など様々な困難を乗り越えてきただけに、喜びもひとしおです。

組合では、「営農を続けていくには利益を出していかなければ」と、収益性の高いミニトマトなど園芸作物の栽培にも取り組んでいます。また、法人化に向けて勉強会を重ね、平成27年1月に「農事組合法人 せんだいあらはま」を設立。大規模ほ場整備が進む農地で、新たな一歩を踏み出しました。

平成27年春からは、組合で1年間の研修を終えた若手農業者2名が法人の従業員として正式採用されることとなり、これからの活躍が期待されています。



平成26年秋、荒浜集落営農組合のほ場に荒浜小学校の子どもたちが訪れ、稲刈りを体験しました。



平成26年から、ミニトマトの栽培に乗り出しました。



組合で働く研修生



「農事組合法人 せんだいあらはま」設立総会





## 荒浜の食文化、「に」

「に」は、荒浜伝統の精進料理です。法事や葬儀があると、地元の豆腐店に大量に油揚げをつくってもらい、醤油とみりんで味付けした汁で一晩かけて煮込みました。平成26年3月に荒浜集落営農組合が開いた「復興感謝のつどい」では、震災後初めて収穫した荒浜産大豆を原料にした油揚げで、懐かしい「に」の味を再現しました。



荒浜伝統の精進料理「に」。生姜を乗せて食べる家もあります。



復興感謝のつどい。来場者からは、「荒浜の味が復活してくれて嬉しい」と大変好評でした。

## 一般社団法人 ReRoots(リルーツ)

「ReRoots」は、仙台在住の学生を中心とするボランティアグループです。平成23年4月18日の発足以来、農地のがれき撤去や営農再開支援、コミュニティ再生など、「地域の力を引き出す媒介」として多彩な活動に取り組

んできました。2015年からは、本格営農再開、コミュニティ再生、景観再生、防災という4つのテーマのプロジェクトを始動。この他、移動販売車“若林区とれたて野菜お届けショップ「くるまあと」”などを行っています。



毎週土曜開催の「くるまあと」。常連客が足を運びます。



景観再生を目的に「ひまわりプロジェクト」に取り組み、毎年「ひまわりまつり」を開催しています。

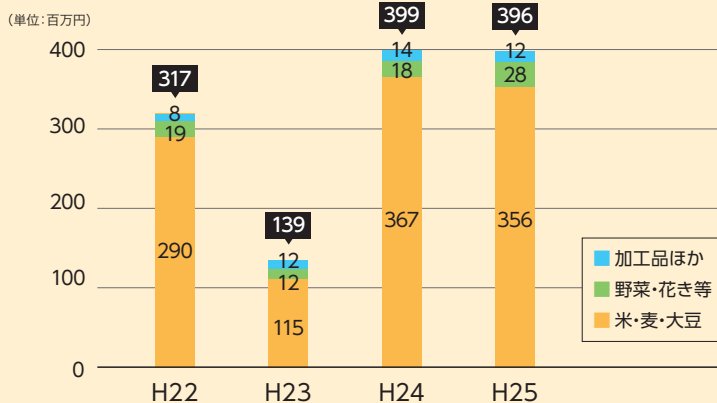


農地や農業者の回復状況を見ながら、復旧から復興へと活動のステージを上げています。



田植えから稲刈りまで、コメ作りを支援する「田んぼプロジェクト」。

## 七郷地区の農業販売額から見る復興のあゆみ(年度別)



### ■ 主要野菜

こまつな  
はくさい  
ねぎ





# 高砂地区

豊かな農業の実現を求めて



## 6次産業化や大規模化で、地域を元気に

震災前の高砂地区では、七北田川河口の平野部で水稲や転作による大豆栽培が盛んで、農協や市場へ出荷されていました。

現在は、より収益性の高い農業の実現を求めて6次産業化や大規模化などを図る

農業者たちが、地域を盛り上げています。また、平成23年秋にオープンしたJA仙台農産物直売所「たなばたけ高砂店」が農家の営農意欲を刺激し、地域の活性化に役立っています。

## 地区の主な取り組み

### 岡田生産組合

岡田生産組合は、震災前から地元産の大豆や米を原料にみその製造・加工・販売に取り組んできた、6次産業化のフロントランナーです。組合長の遠藤源二郎さんは、「地元の雇用を守らなければ」と被災で流出した加工場を内陸に移転し、震災発生から1年後に生産を再開しました。「被災した女性たちも働く場ができて張り切っています」と笑顔を見せます。

「岡田の美味しい味噌をまた食べたいと言ってくれるお客さまの声に、勇気づけられました」と遠藤さん。物産展などを通じて岡田の味噌を知った全国の人たちから注文が入るようになり、生産量も徐々に震災前の水準に回復してきています。

平成25年には、2年3作(米・麦・大豆)の営農を再開しました。また、平成26年には、味噌づくりに携わる女性たちの活躍が評価され、宮城県「農業・農村活性化女性グループ等表彰」最優秀賞を受賞しました。



岡田生産組合の味噌は、大豆と麴の割合が同じで、まろやかな甘みがあるのが特徴です。



「水稲も3班体制で取り組み、収益を上げられるよう頑張りたい」と話す遠藤源二郎さん。



岡田の味噌の美味しさを支える女性たち。



製品となった味噌



## 株式会社 みちさき

「株式会社 みちさき」では、2.8ヘクタールの大規模な養液栽培工場でイチゴやトマト、ホウレンソウなどを栽培し、チェーンレストランやスーパーに出荷しています。「これからの農業は、季節的な土地利用型と、ほぼ毎日出荷できる養液栽培などが一緒でなければならない」と代表の菊地守さん。「中小農家とも連携して、ともに次世代農業を目指していきたい」と考えています。



養液栽培の植物工場。IT技術を用いた集中管理で、育成状況をリアルタイムで監視しています。



菊地守代表取締役(後列中央)と従業員の皆さん。

## JA仙台 農産物直売所 たなばたけ高砂店

復興のシンボルとなることを願い、平成23年10月に開業した農産物直売所たなばたけ。「たなばたけに出荷したい」と被災農業者の営農再開意欲を促し、出荷会員数は2年間で589人にまで増えました。オープン3周年記念祭には、「震災復興米」や新鮮な野菜、花きを所狭しと並べ、大勢の来店客を迎えることができました。



野菜の出荷作業。



新鮮な野菜などが所狭しと並べられた店内。



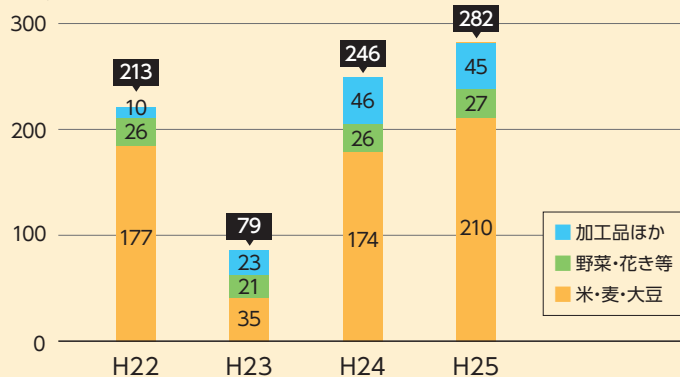
「仙大豆」シリーズは、「第一回新東北みやげコンテスト」(平成26年・仙台市産業振興事業団主催)で優秀賞を受賞しました。



野菜のスイーツづくりに積極的に取り組むたなばたけ。地場の大豆ミヤギシロメを加工したソイチョコ「仙大豆」など、人気商品が続々と生まれています。

## 高砂地区の農業販売額から見る復興のあゆみ(年度別)

(単位:百万円)



### ■ 主要野菜

きゅうり  
ねぎ  
たまねぎ  
ほうれんそう  
ブロッコリー



データ提供: JA仙台



# これからの 農業を支える 施策

復興が進んできた仙台東部地域。  
成長力のある新しい農業の創造を目指して、  
これからどんどん新しい挑戦が始まります。  
仙台市は、農業者が安定して経営に取り組めるよう  
多様な施策を用意し、  
農業者の挑戦を支えていきます。





# 1 担い手の経営再開と地域農業の復興

## 仙台市地域農業基盤強化プラン

復興後の地域農業のあり方について農業者同士が話し合い、地域単位で「仙台市地域農業基盤強化プラン」(国「経営再開マスタープラン」)を作成します。

### 「仙台市地域農業基盤強化プラン」に定める内容

地域で中心となって耕作を行う「担い手」の決定

「担い手」への農地集積・集約化

地域における生産品目、経営の複合化、6次産業化



マスタープラン座談会

# 2 農地集積の推進

農地の売買・貸し借り等は、農地所有者と知人同士の「相対取引」で行われることが一般的です。このため、同じ人が耕作する農地が分散・錯綜して効率的な農作業ができなかったり、新規就農希望者が農地を借りられなかったりするケースが見受けられます。また、農地を相続した非農家が適切な売買先や耕作者を見つけられない場合には、その農地が耕作放棄地となってしまう可能性があります。

農地という資産・資源を有効に活用するためには、地域で中心となって耕作を行う「担い手」に対する農地集約を促進するとともに、農地の貸し借りを容易にする仕組みづくりが重要です。

## ほ場整備事業における換地

「仙台東部地区」及び「名取地区」(仙台市太白区四郎丸地区・名取市北部)の各ほ場整備事業において、集落の農業者代表で構成された「換地・評価・工事委員会」が、地元合意のもと、同じ耕作者がまとまった農地を耕作できるよう、農地の換地の調整を行っています。



換地・評価・工事委員会

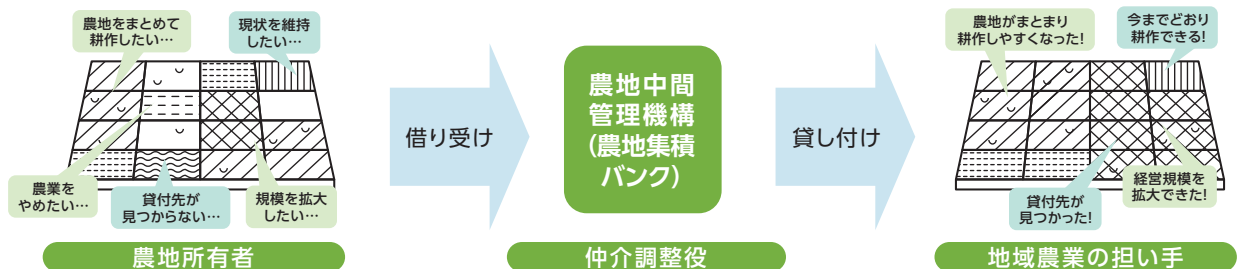
## 農地中間管理機構(農地集積バンク)

「農地中間管理事業の推進に関する法律」(平成26年3月1日施行)により、全国の都道府県に「農地中間管理機構」(農地集積バンク)が設立されました。

機構では、所有者から農地を借り受け(原則10年)、まとまりのある形で農地を利用できるよう配慮のうえ、借り受け希望者に貸し付けます。

この仕組みでは、相対での交渉が不要となり、また長期間安定して農地を利用できることから、農地の貸し借りがこれまでに比べ容易になります。本市では、機構と協力のうえ、農地集約がスムーズに進むよう取り組んでいきます。

## 農地集積のイメージ





### 3 集落営農組織等の法人化

集落単位で共同して農作業を行う形として、「集落営農組織」などの任意組織がありますが、より安定した農業経営を行うため、農事組合法人などの法人組織へ移行する動きが進んでいます。

法人組織へ移行した場合は、法人として機械・施設の保有が可能になる、資金の借入れが有利になる、雇用関係が明確になり後継者や新規参加者を確保しやすい、といったメリットがあります。

本市では、集落営農組織等の法人化を推進するため、経営計画作成や組織運営強化等の研修を実施するほか、収益力強化に向けた経営転換や園芸作物の導入、経営体としての情報発信力強化なども支援していきます。



六郷南部実践組合の皆さんをモデルとしたポスター



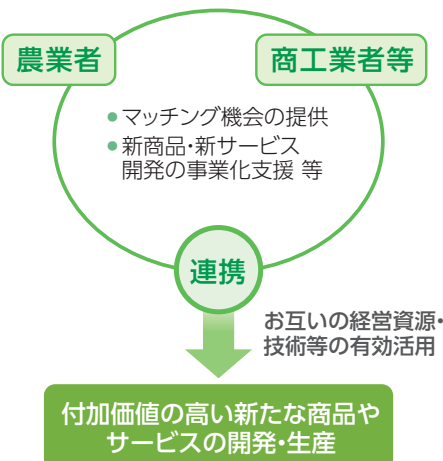
設立総会(平成27年1月10日)

#### 農事組合法人 六郷南部実践組合

春から秋にかけての水稲や転作(大豆・麦)に加え、年間を通じて仕事を行うため、平成26年よりハウスや露地で冬季の野菜栽培を開始。生産性の向上とコストの削減により、経営環境の安定を目指す

### 4 農商工連携

農業者と商工業者等の連携による、それぞれの持つ資源や技術、ネットワーク等を活かした高付加価値商品・サービスの開発や需要開拓の取り組みを支援し、農業を軸とした地域産業の振興を図ります。



農商工連携



朝どり枝豆



コーディネート事業座談会



農商工連携マッチングフェア



## 5 農業の6次産業化

農業の高付加価値化・高度化に向けて、農業者自身による食品加工・流通・販売への参入や、2次・3次産業者との連携等による市場競争力のある作物の生産・新商品の開発・新サービスの提供など、6次産業化を促進します。

また、6次産業の担い手となる農業者の育成を図ります。



**おにぎり茶屋ちかちゃん**

手づくりの味噌やおにぎり、豚汁などを提供する農家レストラン。



**株式会社 耕(カルチュエ)**

炊き上げたご飯を乾燥させた保存食「アルファ米」。水やお湯をそそぐことで、元のご飯に戻りおいしく食べることができます。



**マリズファーム(高山真里子さん)**

震災後に惣菜づくりを本格化。現在は、20～30品目を製造販売。

## 6 農業園芸センター再整備

### 新たな支援拠点施設

仙台市農業園芸センターは、力強く農業を再生する「農と食のフロンティア」の支援拠点施設として生まれ変わります。

「農と食のフロンティア」では、東部地域を、農業が成長力のある産業に生まれ変わる拠点として位置づけ、農業の担い手が将来に夢を持って安全・安心な「新しい食」のあり方を提案していくこととしています。

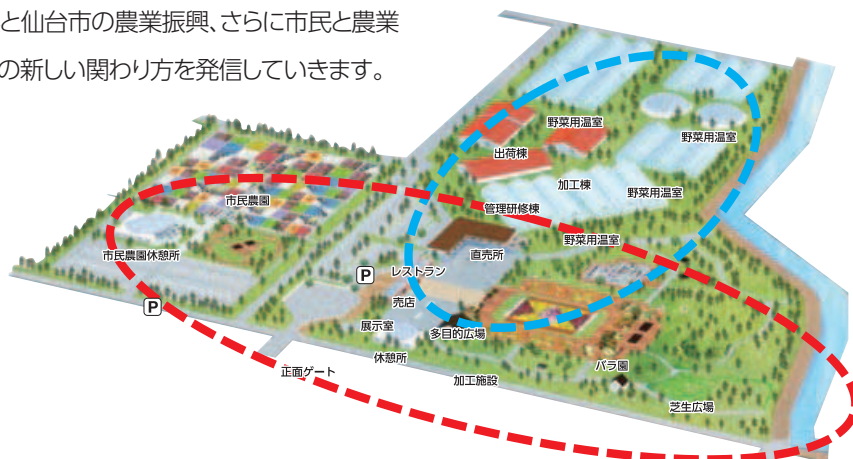
仙台市農業園芸センターはその支援拠点施設です。

### 民間活力の導入

再整備・運営には民間活力を導入し、専門的なノウハウの活用や市場ニーズの確かな把握を通じて、被災した東部地域の復興と仙台市の農業振興、さらに市民と農業との新しい関わり方を発信していきます。



イメージ



### 収益性の高い農業推進支援拠点

6次産業化や複合経営等に向けた研修機能や施設園芸、加工施設等の設置・運営による展示機能を配置し、人材育成や情報発信による収益性の高い農業推進の支援を行う。

### 農と触れ合う交流拠点

市民農園や直売所、広場、レストラン等を設置するとともに、各種行事の開催等により集客を図り、市民が農に触れ、農業者と交流する場としての機能を強化する。



イメージ



# 「仙台東部地域農業の復興を振り返る」

平成26年7月23日 仙台市農業園芸センター

進行／佐々木孝弘(仙台市経済局農林部東部農業復興室長)

——東日本大震災による巨大津波は、仙台市東部地域に甚大な被害をもたらしました。

**菊地** 市役所がある市中心部は、揺れの割には建物被害が見受けられなかったのですが、巨大津波の到来をラジオで知ってびっくりしました。当初は避難勧告が出ており、幹線道路もがれきで塞がっていたため、立ち入り禁止。やっと現地に行ったら惨憺たる有様で、何から手を付けていいのか分からない。知り合いの農家やJA、土地改良区に電話して、被害状況が少しずつ明らかになってきました。

**佐藤** 土地改良区の職員は仕事柄、立ち入り禁止の場所にも入ることができたので、発災3日後から被災地に入りました。想像もつかないような被害額の情報が毎日入ってきて、「また農業ができるのだろうか」というのが実感でした。



——当時は農地に溜まった水が引かず、人命救助やがれき撤去に支障を来していました。

**菊地** 4つの排水機場が破壊されて排水機能を失っていたため、県警から何とか排水してほしいと要請がありました。東北、北陸、関東の各農政局や国土交通省に電話し、最高で34台の仮設ポンプをかき集めました。1日4,000リットルもの軽油が必要で、震災後の燃料不足の中、自衛隊に定期的に燃料を運んでもらえるようになるまで、大変苦労しました。

——発災後1か月足らずの平成23年4月5日、宮城県で初となる「仙台東部地区農業災害復興連絡会」が設立されています。

**菊地** 仙台東土地改良区の佐藤理事長、JA仙台の高野組合長(当時)と情報交換する中で、仙台市を加えた三者の連携が復興には不可欠と判断し、設立に至りました。常日頃から密接な関係を結んでいたおかげで、震災後も早めに対応できました。

**佐藤** 市とは、普段から言いたいことを言える間柄だったのが、

本当に良かったと思っています。

——高橋さんは、震災後の平成23年5月1日付で仙台市経済局長に就任しました。

**高橋** 五里霧中の中で経済局長に就任したわけですが、復興連絡会が既に2回開催されていたため、必要なところを加速していくつもりで臨みました。当時、「農業をやめたい」という人がいる一方で、農業を再開する意欲のある人々も相当いて、その気持ちに応える必要があった。平成23年5月の第3回復興連絡会では、被災農地の復旧工事が入るなら、併せて大区画化を行う「ほ場整備」もやってみたい、との声が上がっている。「禍転じて福となす」と言うとおり、震災を機に、さらに農業を発展させる取り組みをしよう、まずはできることを決めて、後は走りながら考えていこうと思っていました。

——農地のがれき撤去は、宅地のがれき撤去がほぼ終わった平成23年7月1日から始まっています。

**高橋** 施工業者が総力を挙げて宅地のがれき撤去に入っているため、同時並行で農地のがれき撤去を受託するだけの体制が整わなかった、というのが一つ。また、がれきの処理体制も整っていませんでした。国から助成を受ける手続きにも、時間を要しました。

**佐藤** 「自分たちには農業しかない」との声が強まる中、仙台市の農地のがれき撤去は、初動体制が遅いと誰もが思っていました。しかし始めてみれば、被災地の中でがれき撤去が一番早く終わったのは、仙台市。市役所の人員体制が整っていたということが、一番の理由だと思います。

**高野** 農家の人たちは日常生活も落ち着いてきたのに、農地のがれきがあっても何も作れない、収入もない。そこで、集落ごとに復興組合を作って、市から微細がれきの撤去作業や除草(被災農家経営再開支援事業)を受託し、賃金収入を得ることができました。

**高橋** 市では、復興に向けた施策や方針の案は早い段階で作ったのですが、市民の皆さんのご意見をお聞きしたり、アンケートを取ったり、説明会を開催したりして、最終決定まで少し時間がかかった、ということはありません。ただ、市民の皆さんの意向を踏まえると、協力が得られやすく、事業がスタートした後は早い。結果的には、被災地の中でも早く事業を進行させ、あるいはさらにプラスした取り組みを行ったという事例もありました。



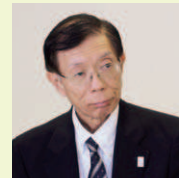
出席者



**高野 秀策**  
前・JA仙台代表理事  
組合長



**佐藤 稔**  
仙台東土地改良区  
理事長



**高橋 裕**  
前・仙台市経済局長  
(現・仙台市ガス事業管理者)



**菊地 利裕**  
前・仙台市経済局農林部長  
(現・仙台市農業委員会事務局長)

(※敬称略)

——津波に流された農業用機械やパイプハウスは、  
多数に及びました。

**高橋** 被災した農家の皆さんから「改めて一人一人が農業用機械を買ったら大変」という声もありましたので、全国市長会などの組織単位で国へ支援制度の創設を要望した結果、「被災地域農業復興総合支援事業」(リース事業)が創設されました。この事業は、市が購入したものを、農業者の集団に無償で貸し出す形です。農家の費用負担が無いため、早期復旧に役立ただけでなく、農業の集団化・法人化の促進、地域のまとまり向上など、プラスアルファの効果があったと思っています。

**高野** 農協でも、集団化・法人化の促進や、6次産業化を促進するための「21世紀水田農業チャレンジプラン」を策定しています。また、農業用機械はリース事業で手当てされましたので、農協では流された肥料を極力補償しました。

——平成24年春、一部の被災農地で、震災後初めての  
営農再開を果たしました。

**佐藤** 春に稲を植えた後の青々とした景観、秋の黄金色の景観は、やっぱり素晴らしい。土地改良区としては、営農再開していない農地からは賦課金をもらわないことにしていましたので、平成23年は農協から借財しながら過ごしたのが、平成24年は賦課金収入が増えていくらか息が付けると思ったことを覚えています。

**高橋** 平成23年は、がれきの撤去で大変でしたが、がれきを取ったら今度は雑草が生えるなど、想像もできないようなことが多々ありました。何とか除塩を済ませて耕作していただき、秋に見た黄金色の稲穂は、自分では植えていないのにまるで我が子のように感じました。その後予定していた、他の農地での段階的な営農再開も、何とか達成できると自信が持てました。

——現在、東部地域では、農地の大区画化を行う「ほ場整備」が  
始まっています。

**佐藤** 一般的に、ほ場整備をする場合は合意形成に3~4年かかるところを、東部地域では1~2年で合意に達しました。本当に急いでやってきたから、今がある。

**高橋** まず、農家の皆さんの意見を集約する中で、ほ場整備の実施要望が出てきました。市でも、日本の農業を先導するような新しい農業をこの東部地域でやろうとするなら、ほ場整備は必須と

考えました。市では、他にも復旧・復興に向けた案件をたくさん抱えていたので、異例の国直轄事業として実施いただいています。これは、市が要望したというのがありますが、復興連絡会で地域一体となって復興に取り組んできたことが、評価されたものと思っています。

**菊地** 今回のほ場整備では、復旧・復興事業として円滑に進行させるため、農家の負担分も市が代わって負担すると、市長が決断しました。

**佐藤** 災害復旧を目的としたほ場整備の事業負担割合は、制度上は国95%、県3%、農家2%ですが、営農再開する場所も収入もない、農機具も住む家もない中で、2%の事業費負担はきつかったので、市に肩代わりしてもらって本当に良かった。また、国直轄事業となったことで、被災して亡くなった方の農地の権利者確定も、国が直接動いてくれて早く進みました。

——平成26年春は、ほぼ全ての被災農地で営農を  
再開しています。

**高橋** 地域におけるネットワーク作りや、農業の法人化が進んでいます。若い人も、農業に参入しようという動きが出てきている。我々が経験してきたことを、東部地域はもちろん、それ以外の地域にも生かし、「自分もやろう」「息子・娘と一緒にやってみよう」と、いろいろな動きが出ることを期待したい。そのためにも、行政が継続して取り組みを進めていければと思っています。

**菊地** かつて昭和50年代、宮城県で「集団転作の草分け」と言われたのが、東部地域の岡田・七郷地区でした。このように、東部地域には、地域全体で先進的なことをやり遂げるというポテンシャル、風土がある。復興が進んでいけば、いずれ「都市農業は仙台東部地域から学べ」と言われるようになると思っています。





# 東部農業地域の復旧・復興の歩み (仙台東地区・四郎丸地区)

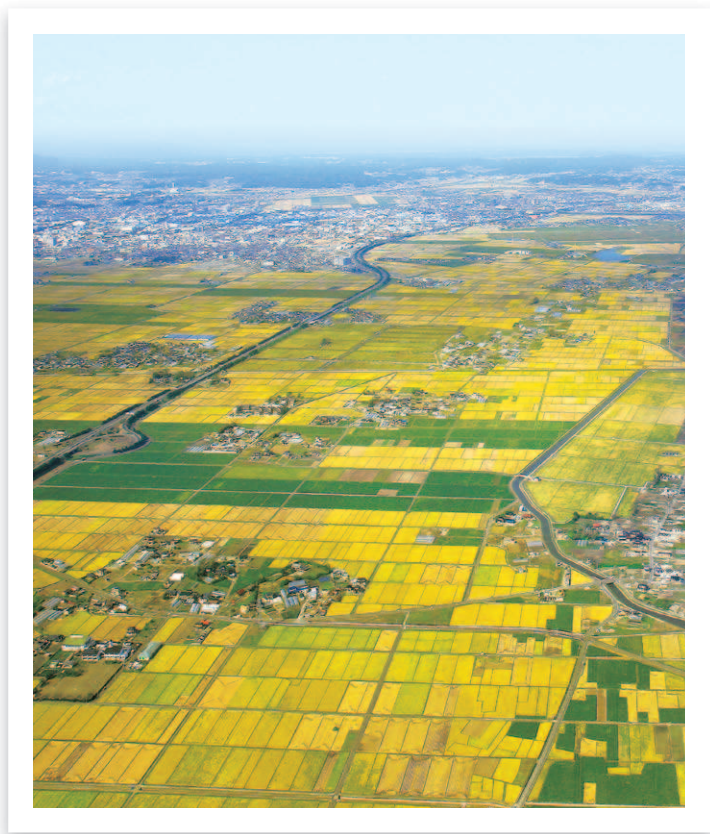
平成 23 年		平成 24 年	
3月11日	東日本大震災発生	11月30日	「仙台市震災復興計画」策定 ・「力強く農業を再生する」農と食のフロンティアプロジェクト策定
3月20日～26日	〈仙台東地区〉被災した基幹排水機場に仮設ポンプ設置	12月上旬	〈仙台東地区〉基幹排水機場の応急復旧工事（～H24年6月中旬）
3月25日	市長農業被災状況視察 ・東北大学大学院農学研究所教授同行 ・国分 牧衛教授（作物学）・南條 正巳教授（土壌分析学）他 ・全壊した排水機場の確認 ・海水の浸透した水田の土壌調査等実施	12月13日	第10回 仙台東地区農業災害復興連絡会 ・ほ場整備の区域（素案）について 他
3月29日	塩害状況調査を実施	12月18日	〈仙台東地区〉第2回 仙台東地区復旧・復興事業説明会（高砂地区、七郷地区、六郷地区） ・区画整理事業区域（素案）について 他
～30日	調査主体：仙台市、宮城県仙台農業改良普及センター、JA 仙台	12月28日	農地のがれき撤去完了
4月1日	「仙台市震災復興基本方針」公表	平成 24 年	
4月5日	第1回 仙台東地区農業災害復興連絡会 ・仙台市東部地区の農業被災状況について ・仙台市東部地区における排水の確保について ・今後の進め方について 他	1月1日	〈仙台東地区〉東北農政局「仙台東土地改良建設事業所」開設
4月14日	市長と農業団体の意見交換会 ・被災状況及び要望事項 ・復興に向けた取り組み 他	1月17日	〈仙台東地区〉津波被害エリア500haの農地復旧及び除塩工事に着手（～3月下旬）
4月15日	第2回 仙台東地区農業災害復興連絡会 ・組織体制について ・今後の運営について	1月27日	〈四郎丸地区〉四郎丸地区農業復旧・復興事業に係る懇談会 ・復興交付金事業におけるほ場整備について ・今後のスケジュール
5月15日	〈仙台東地区〉一部水田に通水開始	1月31日	第11回 仙台東地区農業災害復興連絡会 ・ほ場整備事業区域（概定）について ・ほ場区画の形状について 他
5月16日	第3回 仙台東地区農業災害復興連絡会 ・東部地区のまちづくりに向けた方針について ・国の補正予算関連の事業について 他	2月4日	〈仙台東地区〉第3回 仙台東地区復旧・復興事業説明会（高砂地区・七郷地区・六郷地区） ・ほ場整備事業区域（案）について ・ほ場区画の形状（案）について 他
5月30日	〈四郎丸地区〉中田地域農業復興組合設立 「仙台市震災復興ビジョン」策定	2月15日	「農と食のフロンティア推進特区」申請
5月31日	〈仙台東地区〉仙台東地区の直轄特定災害復旧事業を要請（仙台市長から宮城県知事へ）	2月20日	第12回 仙台東地区農業災害復興連絡会 ・ほ場整備の事業区域（案）について ・「（仮称）農と食のフロンティア推進特区」について 他
6月9日	第4回 仙台東地区農業災害復興連絡会 ・「仙台市震災復興ビジョン」の説明について ・「東日本大震災に関する緊急要望」について 他	3月2日	「農と食のフロンティア推進特区」認定
6月12日	〈仙台東地区〉高砂地域農業復興組合設立	4月1日	仙台市経済局農林部に「東部農業復興室」を設置
6月15日	〈仙台東地区〉七郷地域農業復興組合設立	4月5日	〈仙台東地区〉第1回 仙台東地区ほ場整備事業推進協議会 ・会長、副会長の互選について ・協議会、幹事会、検討部会の構成について ・今後の協議会等の進め方について
6月16日	〈仙台東地区〉六郷地域農業復興組合設立	4月27日	〈仙台東地区〉第2回 仙台東地区ほ場整備事業推進協議会 ・区画計画、道水路計画等について ・営農計画、農地集積計画の基本的な考え方 ・換地設計基準（案）の例示
7月1日	農地のがれき撤去作業着手	5月上旬	〈仙台東地区〉津波被害エリア1,800haのうち500haの農地で営農再開 〈四郎丸地区〉津波被害エリア58haのうち57haで営農再開
7月8日	第5回 仙台東地区農業災害復興連絡会 ・除塩対策の取り組み状況について ・農地のがれき撤去開始について ・被災農業者支援策について ・復興計画策定の進捗状況について 他	5月7日	〈四郎丸地区〉四郎丸地区ほ場整備事業に関する説明会 ・ほ場整備事業の概要について ・ほ場整備事業推進体制について
8月5日	〈仙台東地区〉東日本大震災における仙台東地区の復旧についての要望書提出（仙台市長から東北農政局長へ）	5月11日	第13回 仙台東地区農業災害復興連絡会 ・仙台東地区ほ場整備事業の進捗状況について ・平成24年度における農地災害復旧工事について 他
8月9日	第6回 仙台東地区農業災害復興連絡会 ・除塩地区における観測ほ場の生育調査結果などについて ・東部地域の農業・農地の復旧・復興スケジュールについて ・東部地域の農業復興の方向性について 他	5月15日	〈仙台東地区〉津波被害エリア900haの農地復旧及び除塩工事に着手（～H25年3月下旬） 〈四郎丸地区〉四郎丸地区ほ場整備事業に関する説明会 ・ほ場整備事業の概要について ・ほ場整備事業推進体制について ・今後のスケジュールについて
8月24日	第7回 仙台東地区農業災害復興連絡会 ・宮城県復興計画最終案等について ・東部地域の農業復興の方向性に対する意見交換 他	5月22日	〈仙台東地区〉第1回 仙台東地区ほ場整備事業検討部会（高砂地区・七郷地区・六郷地区） ・区画計画、道水路計画等について ・換地方針の検討 他
8月26日	〈仙台東地区〉直轄特定災害復旧事業（仙台東地区）の施行についての通知（農林水産大臣より）	5月23日	〈四郎丸地区〉第1回四郎丸地区ほ場整備事業推進委員会設立総会 ・ほ場整備事業の計画について ・名取地区（四郎丸地区）ほ場整備事業推進体制について 他
9月20日	「仙台市震災復興計画」（中間案）策定	5月30日	市長農業復旧状況視察 ・東北農政局同行（排水機場の復旧状況・除塩工事の状況） ・水耕栽培のトマト生産状況
9月22日	第8回 仙台東地区農業災害復興連絡会 ・「仙台市震災復興計画」（中間案）の報告について ・「JAの復旧・復興対策」について 他	6月11日	〈四郎丸地区〉第1回 四郎丸地区ほ場整備事業検討部会 ・協議会設立総会の報告 ・意向調査票について ・今後のスケジュールについて
9月27日	市長農業復旧状況視察 ・除塩作業を行った水稲の生育状況 ・農業者と民間企業等の連携で始まったトマト栽培 ・津波浸水区域の転作大豆の生育状況 ・排水機場の復旧状況	6月19日	〈仙台東地区〉第2回 仙台東地区ほ場整備事業検討部会（高砂地区・七郷地区・六郷地区） ・先進地視察意見交換会 他
10月27日	市長記者発表 ・ほ場整備事業の農業者負担分を市が負担することについて表明	6月28日	〈仙台東地区〉第1回 仙台東地区ほ場整備事業集落説明会（延べ13回開催） ～7月8日 ・農地復旧（除塩）スケジュール、排水機場の復旧について ・区画計画、用排水路計画等について ・被災地域農業復興総合支援事業（リース事業）、農地の利用集積について
10月31日	第9回 仙台東地区農業災害復興連絡会 ・東部地域の再整備について 他		
11月上旬	〈仙台東地区〉用排水路等の応急復旧、農地の堆積土砂撤去・除塩工事開始（～2月下旬）		
11月9日～14日	〈仙台東地区〉第1回 仙台東地区復旧・復興事業説明会（高砂地区、七郷地区、六郷地区） ・平成24年度営農再開に向けた復旧工事の進め方について ・農地災害復旧関連区画整理事業について		



7月17日	〈仙台東地区〉第3回 仙台東地区ほ場整備事業推進協議会 ・集落説明会の開催状況について ・今後の進め方
7月17日 ～25日	〈仙台東地区〉第3回 仙台東地区ほ場整備事業検討部会（高砂地区・七郷地区・六郷地区） ・土地改良事業計画概要（案）について ・ほ場整備標準図について 他
7月20日	「農事組合法人仙台イーストカントリー」を農と食のフロンティア推進特区の第1号として指定
7月24日	〈四郎丸地区〉第2回 四郎丸地区ほ場整備事業検討部会 ・実施区域の決定について ・意向調査の状況報告 ・基本計画案について 他
8月7日 ～8日	〈仙台東地区〉第4回 仙台東地区ほ場整備事業検討部会（高砂地区・七郷地区・六郷地区） ・集落説明会について ・換地の進め方について 他
8月8日	〈四郎丸地区〉第3回 四郎丸地区ほ場整備事業検討部会 ・ほ場整備事業計画の概要について ・ほ場整備事業実施区域について ・ほ場整備事業の換地について ・推進委員会（集落説明会）の日程について 他
8月10日	〈仙台東地区〉第4回 仙台東地区ほ場整備事業推進協議会 ・第1回集落説明会での主な質問・要望と回答について ・事業計画概要書（案）等について ・第2回集落説明会開催について 他
8月26日 ～9月9日	〈仙台東地区〉第2回 仙台東地区ほ場整備事業集落説明会（延べ25回開催） ・第1回集落説明会での主な質問・要望と回答について ・仙台東地区のほ場整備事業計画概要について
8月27日	〈仙台東地区〉仙台東地区ほ場整備事業法手続き着手
8月29日	〈四郎丸地区〉第2回 四郎丸地区ほ場整備事業推進委員会総会 ・ほ場整備事業計画の概要について ・ほ場整備事業実施区域について ・ほ場整備事業の換地について ・推進委員会（集落説明会）の日程について 他
8月30日	第14回 仙台東地区農業災害復興連絡会 ・国営仙台東土地改良事業計画の概要について ・被災地域農業復興総合支援事業（リース事業）について 他
9月3日	東北大学大学院農学研究科との連携協定
9月19日 ～20日	〈仙台東地区〉第5回 仙台東地区ほ場整備事業検討部会（高砂地区・七郷地区・六郷地区） ・第2回集落説明会の開催結果について ・工事計画に対する要望等について 他
10月11日 ～12日	〈仙台東地区〉第6回 仙台東地区ほ場整備事業検討部会（高砂地区・七郷地区・六郷地区） ・第3回集落説明会について ・工事計画関連用水ブロック分会 ・換地・評価・工事委員の選任について
10月16日	〈仙台東地区〉用水ブロック会議南方・藤田・神屋敷・笹屋敷・荒浜集落で用水ブロック会議が始まる
10月17日	〈仙台東地区〉第5回 仙台東地区ほ場整備事業推進協議会 ・計画概要書の公告・住民意見聴取の結果 ・工事計画（工事検討部会）について ・換地計画（換地検討部会）について 他
10月23日 ～11月11日	〈仙台東地区〉第3回 仙台東地区ほ場整備事業集落説明会（延べ27回開催） ・ほ場整備事業計画について ・集落説明会での主な質問・要望と回答について ・事業計画概要書の同意徴収について
10月29日～31日	〈仙台東地区〉仙台東地区ほ場整備事業同意徴収に向けた説明会
11月6日	〈四郎丸地区〉第4回 四郎丸地区ほ場整備事業検討部会 ・集落説明会の日程等について ・ほ場整備工リアの除外地の確認 他
11月10日	〈仙台東地区〉仙台東地区ほ場整備事業同意徴収開始
11月18日	〈四郎丸地区〉第3回 四郎丸地区ほ場整備事業推進委員会総会 ・ほ場整備事業計画の概要及び概要書について ・ほ場整備事業の換地地区について ・換地・評価委員について
11月19日	〈四郎丸地区〉四郎丸地区ほ場整備事業法手続き着手
12月4日 ～5日	〈仙台東地区〉第7回 仙台東地区ほ場整備事業検討部会（高砂地区・七郷地区・六郷地区）

12月4日 ～5日	・第3回集落説明会の結果について ・用水ブロック分会検討状況について ・同意徴収の状況（速報）について 他
12月12日	〈仙台東地区〉第6回 仙台東地区ほ場整備事業推進協議会 ・用水ブロック分会の検討状況について ・換地評価工事委員会（スケジュール）について 他
<b>平成 25 年</b>	
1月上旬	〈仙台東地区〉津波被害エリア 400ha の農地復旧及び除塩工事に着手
1月5日	〈四郎丸地区〉四郎丸地区ほ場整備事業同意徴収開始
1月8日	〈仙台東地区〉換地・評価・工事委員会開催（六郷地区井土）
1月17日 ～23日	〈四郎丸地区〉第5回 四郎丸地区ほ場整備事業検討部会 ・同意徴収体制について
1月30日	〈四郎丸地区〉第6回 四郎丸地区ほ場整備事業検討部会 ・同意徴収状況について
2月4日	〈四郎丸地区〉宮城県営名取地区土地改良事業施行申請
2月6日 ～13日	〈仙台東地区〉第8回 仙台東地区ほ場整備事業検討部会（高砂地区・七郷地区・六郷地区） ・同意徴収状況について ・今後の法手続きのスケジュールについて
2月15日	第15回 仙台東地区農業災害復興連絡会 ・平成25年春営農再開地域におけるリース事業等の取り組みについて ・農と食のフロンティア推進特区の取り組みについて ・平成25年度における復興事業について 他
3月7日	〈四郎丸地区〉宮城県営名取地区土地改良事業施行決定
3月27日	農業機械等引渡式（被災地域農業復興総合支援事業（リース事業））
3月28日	（株）日本政策金融公庫仙台支店との連携協定
5月上旬	〈仙台東地区〉津波被害エリア 1,800haのうち 1,400haの農地で営農再開（H24 営農再開分 500haを含む） 〈四郎丸地区〉津波被害エリア 58ha すべての農地で営農再開
5月7日	仙台市農業園芸センター再整備基本方針の決定
5月10日	〈仙台東地区〉第7回 仙台東地区ほ場整備事業推進協議会 ・区画整理事業計画の法手続きについて ・工事着手に向けた今後の進め方について
5月15日	市長農業復興状況視察 ・東北農政局同行（復旧農地における田植え状況） ・市から無償リースした農機具の稼働状況 ・再建されたハウス施設や農産物処理加工施設等の状況 ・若手・女性農業者との意見交換
6月4日	〈四郎丸地区〉宮城県営名取地区土地改良事業計画確定
6月22日	〈仙台東地区〉国営仙台東土地改良事業計画確定
7月16日	第16回 仙台東地区農業災害復興連絡会 ・仙台東地区及び四郎丸地区のほ場整備事業の進捗状況について ・仙台東地区の営農再開及び農地集積等の状況について ・荒浜プロジェクトについて 他
9月1日	『泉州にぎわいフェスタ』（大阪府泉佐野市開催）で仙台市の農産物等を販売（泉佐野市と仙台市の絆交流イベント）
9月19日	〈仙台東地区〉国営仙台東土地改良事業工事着手
9月28日	市長農業復興状況視察 ・東北農政局同行 （復旧農地における収穫状況・ほ場整備工事状況） ・園芸施設の状況視察
10月22日	〈四郎丸地区〉宮城県営名取地区土地改良事業工事着手
10月25日	〈仙台東地区〉国営仙台東土地改良事業起工式
11月29日	〈四郎丸地区〉四郎丸地区ほ場整備事業集落説明会 ・ほ場整備事業工事計画について ・換地設計基準及び土地評価基準について 他
<b>平成 26 年</b>	
3月11日	「農の新風、ここに興る」-仙台東地区 農業復興の記録- 発行
5月上旬	〈仙台東地区〉初の大区画化ほ場で作付け開始（六郷地区 井土・約75ha）
5月	新しくなった大堀排水機場が一部稼働開始
6月上旬	六郷ライスセンター着工
9月6日	「泉州・開空にぎわいフェスタ」（大阪府泉佐野市開催）で仙台市の農産物等を販売（泉佐野市と仙台市の絆交流イベント）
<b>平成 27 年</b>	
2月	新しくなった高砂南部排水機場が一部稼働開始
3月1日	「未来の農をこの地に」-仙台東地区 農業復興の記録- 発行
3月14日～18日	国連防災世界会議においてシンポジウム等を開催
3月下旬	六郷ライスセンター完成





平成26年9月26日 若林区(仙台東部道路)上空


## 仙台市経済局

農林部 東部農業復興室

〒980-8671  
宮城県仙台市青葉区国分町3丁目6-1 仙台パークビル9階  
電話/022-214-7327 ファクス/022-214-8338

協力 農林水産省東北農政局 宮城県 仙台東土地改良区  
仙台農業協同組合

制作 凸版印刷株式会社  
事業 緊急雇用創出事業(震災等緊急雇用対応事業)  
「東部農業の復興記録制作事業」

 ベジタブルオイルインキと再生紙を使用しています。

第3回国連防災世界会議  
開催都市 仙台



World Conference on  
Disaster Risk Reduction  
2015 Sendai Japan